



みつくら



《 輸入大豆 》

16/17年 世界及び米国大豆生産予測・需給予測

米国農務省が3月9日発表した、16/17年度の世界大豆生産・需給予測によれば、ブラジルでの増産を反映し、生産量は前年比1.2%増の3億4,079万トンとなりました。

期初在庫の減少や需要量が増加した一方で、生産量の増加がそれを上回り、期末在庫は前年比3.0%増の8,282万トンと上方修正となっています。

また、同日発表された米国大豆生産・需給予測によると、単収・生産高は前回から変わらず、供給量は据え置かれました。需要量は国内搾油が前回から増加したものの、輸出が減少したこと>>で在庫率が前年比0.4%増の10.6%に上方修正されています。

16/17年産 世界大豆生産・需給予測

生産量	3億4,079万t	(対前年比	8.9%増)
消費量	3億3,170万t	(対前年比	5.3%増)
期末在庫量	8,282万t	(対前年比	8.1%増)
期末在庫率	25.0%	(対前年度差	0.6ポイント増)

16/17年産 米国大豆生産・需給予測

生産量	1億1,721万t	(対前年比	9.7%増)
消費量	5,629万t	(対前年比	3.0%増)
輸出货量	5,511万t	(対前年比	4.6%減)
期末在庫量	1,184万t	(対前年比	121.3%増)
期末在庫率	10.6%	(対前年度差	5.6ポイント増)



○17年産米国大豆作付面積予測、史上最高を更新か

アメリカ農務省がこのほど開いた今年の農業展望会議で報告された17年産米国大豆の作付面積予測は、前年比5.5%増の8,800万エーカーと史上最高を更新する見通しとなっています。現在の相場の値位置や生産コストからすると、大豆は競合関係にあるトウモロコシと比べて収益が比較的に有利なことや、中国向け輸出需要も堅調なことなどから、作付面積は拡大すると見られています。

○中国 組み換え作物の商業生産へ前進

昨年11月号で既報の通り、中国政府が遺伝子組み換え作物の商業生産本格化へ向けて前進しています。昨年に安全管理手法に関する規定を14年ぶりに改訂したのに続き、今年は試験栽培を行う6カ所の試験場を認定しました。5カ年計画の最終年度である2020年までに大豆やトウモロコシ、綿花の実用化を目指しています。しかし大農業地帯にある黒竜江省が遺伝子組み換え作物の栽培禁止を宣言するなど、国民の理解は十分ではないようです。導入に向けては管理をどこまで徹底できるかが焦点になっています。

三倉産業株式会社

仙台市若林区卸町1-4-7 TEL 022-232-6151

URL:<http://www.mitk.co.jp/mitukura> E-mail: mitk@mitk.co.jp

<< 「豆」がメロディーを奏でると「豊」という字ができます >>



みつくうら



《 国産大豆 》

○平成28年産国産大豆入札情報

平成28年産国産大豆の2月の入札結果が、日本特産農産物協会より発表されました。

それによると、上場数量1万0,134トンで、落札数量が5,169トン、落札率は51%という結果となりました。平均落札価格は、60kg/9,700円となり、前月と比較すると、60kg/369円値上がりしました。

普通大豆の銘柄別では、九州産フクユタカや北海道産とよまさりが前月から若干値下がりしたものの、青森県産おおすずや秋田県産リュウホウは前月と比べ値上がりしました。

今回の入札では集荷見込みの下方修正もあり、一部で九州産を中心に価格高騰の可能性も伝えられましたが、それでも収穫量は十分あり影響は大きくありませんでした。

入札月	上場数量	落札数量	落札率
16年 12月	5,009 t	2,020 t	40%
17年 1月	7,178 t	3,563 t	50%
17年 2月	10,134 t	5,169 t	51%
合計	22,321 t	10,752 t	48%

○28年産大豆収穫量は3%減の23.5万t、北海道など大幅減－農水省

農水省はこのほど28年産国産大豆の収穫量を、前年比3%減の23万5,500tと発表しました。作付面積は水稲や小豆などからの転作により、6%増の15万haに拡大したものの、単収は天候不順の影響により北海道を中心に生育が悪化したため低下しました。また、東北では作付面積は4%増加したものの、単収が3%減となったため、ほぼ前年並みの結果となりました。

《 トピックス 》

○大阪府豆腐油揚商工組合主催 28年産ミヤギシロメ試作会

同組合青年部が中心となり、28年産ミヤギシロメの試作会が3月19日に行われました。他県からは京都・奈良・福井・岡山から参加された方もおり約40人の豆腐職人が集結。弊社からの選りすぐりの生産者のミヤギシロメ7種類(5生産組合)の品質を吟味して頂きました。評価の程は『甘さはすべてしっかりしている』と高評価であり、中でも特異なコク・旨味を感じられる生産者もあり、新たな発見と手応えを感じられる結果となりました。産地のブランド化が進んだ瞬間です^^



三倉産業株式会社

仙台市若林区卸町 1-4-7 TEL 022-232-6151

URL:<http://www.mitk.co.jp/mitukura> E-mail: mitk@mitk.co.jp

<< 「豆」がメロディーを奏でると「豊」という字ができます >>